

災害実動機関における組織横断の情報共有・活用 (SIP第3期サブ課題C)

社会防災研究領域 総合防災情報センター／防災情報研究部門

伊勢 正

Point

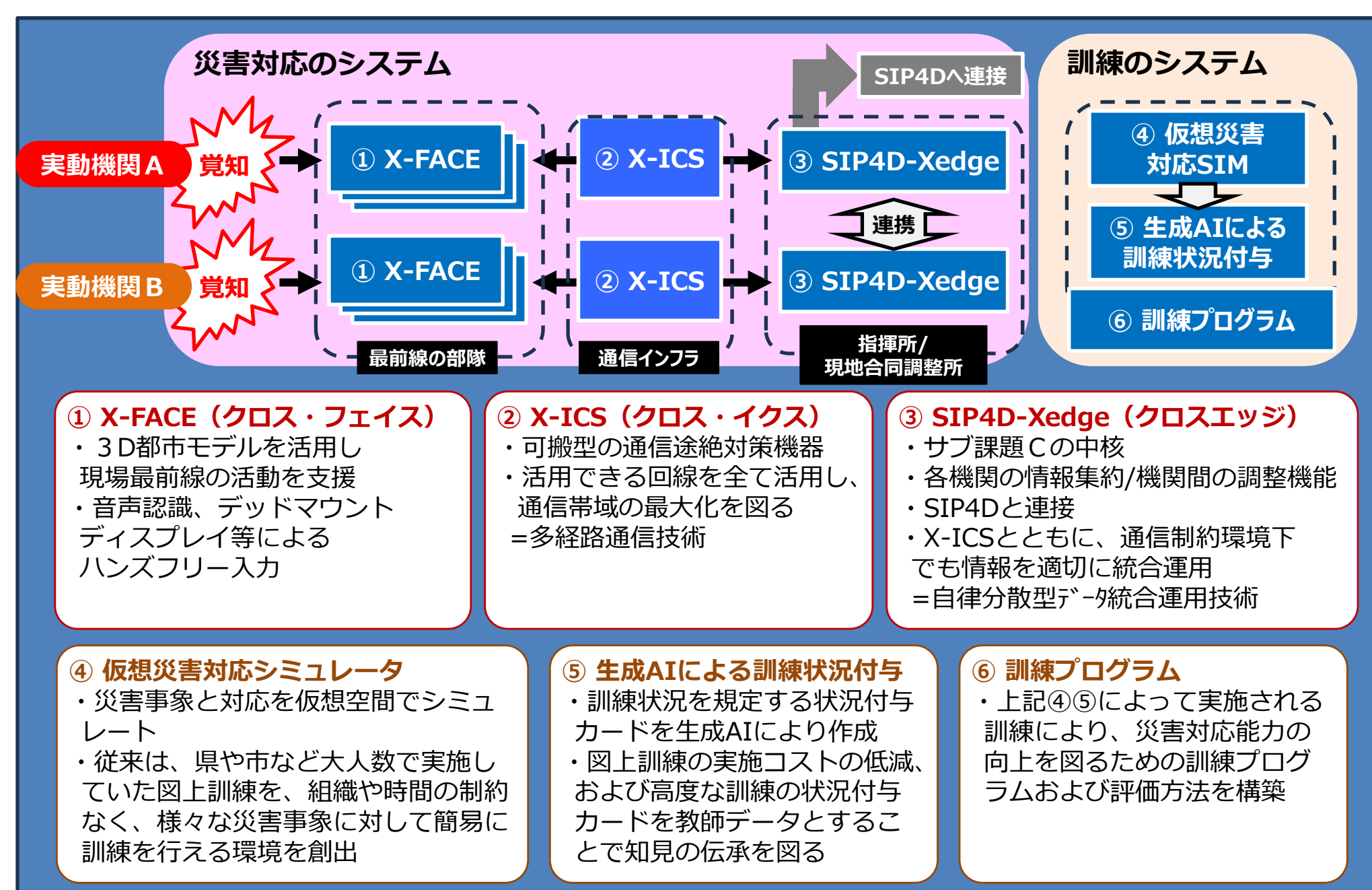
もちろん大切

- これまでの情報共有は“災害対策本部への集約”が目的
- しかし、被災者生死を分けるのは、“**現場の情報共有**”
- 戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）で“**現場DX**”に挑む！！

概要

SIP4Dは、主に府省庁および都道府県の災害対策本部をつなぎ、円滑な災害情報の共有を実現してきました。その一方で、消防や自衛隊など実動機関間のコミュニケーションは、無線による口頭伝達や手書メモの交換が主流であり、高度に連携運用するための情報通信機器が導入されていないのが現状です。

そこで、被災した市町村を中心として、地元消防や消防団を含む各実動機関が、それぞれが把握した情報を共有し、適切な連携運用を実現するためのシステム群を研究開発します。



事件は現場で起こってんだ！
会議室じゃーない！！



【検証】実動機関の訓練にシステム提供



【実践】令和6年能登半島地震の初動対応
1月2日未明@石川県庁



【訓練】自衛隊ヘリによる機器の搬送訓練
5月21日@防災科研（つくば市）

詳細はこちら

75_人命救助の最前線に器材を届ける	古川研究員
76_災害時情報集約支援体制高度化のための訓練プログラムの開発	筒井研究員
77_みちのくALERTにおけるデータ連携の実証	工藤研究員
78_令和6年能登半島地震に関する実動機関インタビュー調査	飯田研究員
81_自律分散型データ統合運用技術	磯野研究員



15分で
サブ課題Cが分かる

